

” ベビーブーマーから 21世紀世代人へのメッセージ・シリーズ
” 【引継書 第一部 異常時代の終焉と新時代】



発売日: 2017年4月15日

出版: パプフル

著者: 大塚 濱治

ページ: 107

PDF

21世紀の男女を問わない現代人は、長年の歴史由来即ち日本の歴史の中で熟成されてきた

感覚、感情を受け継いでいます。

人は、基本的に過去のことを忘れ易く、知識として少々を維持していく程度と思いがちですが、その実は、ほぼ100% (例外がゼロとは言いませんが)

の高齢者が、幼少時に、両親及び学校から教育されたこと、その後の人生体験から学んだことによって、自分自身の思考性が形成されていることに気付いていません。

このことは、二代、三代という世代間においても、家族間の継承という形で起きていて、
言わば、人の性(さが)

というべきものです。この地球上には、何百という国があり、都市があり、民族が違い、言葉が違い、宗教が違い、歴史が違い、慣習が違い、価値観が違う。その中の一つが現在の日本という国です。また、元来日本には300近い国々(明らかに小国群ですが)

が存在していました。現在の都道府県よりも何倍も多かったのです。しかしながら、歴史上の三時代を通じて中央集権という手法によって、一つの国という形態をとってきています。

江戸時代から、明治時代、戦後の時代の三時代の経験を生かして、他国の模倣ではなく、これからは、日本人の将来に日本人に適合した民主主義の社会体制を構築することが、最後の目標になると思います。今の日本では、地方自治体は、中央政府(=特定政党)

に支配されています。日本という国は、面積が広くないことで、一つの国と考えるしかないと思いがちですが、歴史と自然環境と文化など多くの点から、本来沢山の小国の集合体とみるのが正しい見方で、歴史から学べることです。優秀な民族ほど大きな権力の集中を避けないと、強権を振るう独裁的な政治に陥り易いことは、歴史から学んだことではないでしょうか？

21世紀に入った現在、日本と日本人が、単純に大敗した戦争とその戦後を忘却するというのではなく、江戸時代からの三時代という414年間の貴重な経験を持って、民主主義達成へのプロセスとしての歴史から抜け出して、新しい日本独特の真の日本人のための民主主義(主権在民、自由、平等、平和)の樹立を実現させたいものです。

この引継書は21世紀世代人の皆さん全員に捧げるものです。

(引継書)

第一部 異常時代の終焉と新時代

第二部 男女平等社会の実現に向かって

第三部 世界の国を理解するために・世界の四大宗教と人について

男女平等は日本の民主主義達成には不可欠なこと。世界の四大宗教は、日本人が外国人を理解するためには、必ず知っておかなければならない重要なことです。

<https://k2s.cc/file/ab12bdf8fdd8d/a7H1rdKji.pdf.rar>